

報 告

第31回日本臨床環境医学会学術集会を振り返って

東 賢 一

第31回日本臨床環境医学会学術集会 会長

第31回日本臨床環境医学会学術集会（メインテーマ：次世代の健康社会を実現する環境に向けて）が2023年6月24日（土）、25日（日）に近畿大学東大阪キャンパス11月ホールで開催されました。開催形式は、対面とオンライン同時配信といたしました。懇親会も開催いたしました。以下に本学術集会の概要を紹介いたします。

学術集会での学術イベントは、特別講演2件、特別シンポジウム講演4件、日台国際シンポジウム講演5件、分科会報告3件、一般研究発表44件（口頭発表34件、ポスター発表10件）となりました。機器展示では、旭化成株式会社様と株式会社カノマックスコーポレーション様が出展され、株式会社アイデック様、株式会社カノマックスコーポレーション様、CTM 研究コンサル様が抄録集に広告を掲示していただきました。

参加者数は、特別講演と各シンポジウムの招待者を含めると105名でした。懇親会には64名が参

加されました。懇親会では近大マグロの解体ショーが行われ、当日の朝に和歌山県串本町のいけすから釣り上げられた生のクロマグロ（38kg）が振る舞われ、会場は大いに盛り上がりました。本学術集会では、初めて国際シンポジウムが開催されました。また、一般発表でも国際セッションが設置され、英語での発表と討議が行われました。台湾から6名の研究者が参加され、日本の研究者との交流を深めていただきました。

■特別講演

特別講演1

漆原宏次（近畿大学総合社会学部）：「水族館展示映像がもたらす心理的効果」

特別講演2

阪本 亮（近畿大学病院）：「笑いの医学的検証について—吉本興業との共同研究—」



写真1 ポスター発表の会場



写真2 懇親会での近大マグロの解体ショー（会長による入刀式）

■第31回特別シンポジウム：次世代の健康社会 を実現する環境に向けて—現在と未来—

講演 1

道川武紘 (東邦大学医学部) : 「環境汚染物質の妊婦への健康影響：産科合併症に着目して」

講演 2

金谷久美子 (京都大学大学院医学研究科) : 「黄砂・PM_{2.5}の妊婦や子どものアレルギー症状への影響」

講演 3

盧 溪 (熊本大学大学院生命科学研究部) : 「化学物質過敏症の個体要因とパーソナリティ～QEESI 質問票を用いた共分散構造分析～」

講演 4

近藤 明 (大阪大学大学院工学研究科) : 「室内外の化学物質濃度からの発生源推定手法」

■日台国際シンポジウム：日本と台湾の環境過敏症患者の現状と病態解明・発症予防に対する今後の展望

講演 1

Li-Chen Chen (New Taipei Municipal TuCheng Hospital) : 「Current status of allergic diseases in Taiwan: a brief narrative from the environmental perspective」

講演 2

Shau-Ku Huang (National Health Research Institutes) : 「Multi-dimensional investigation of environmental influence on allergic diseases and its mitigation strategy: Taiwan experience」

講演 3

Sachiko Hojo (Tohoku University Graduate School) : 「Environmental hypersensitivity in Japan Current status and future prospects from an epidemiological perspective」

講演 4

Kentaro Watai (National Hospital Organization Sagami National Hospital) : 「Elucidating the pathogenesis of environmental hypersensitivity using genetic methods: Ge-

nome-wide association study and gut microbiome analysis」

講演 5

Yoshiyuki Kuroiwa (Ministry of Finance) : 「A neuroscientist's hypothesis of the pathogenesis of environmental hypersensitivity and future prospects」

■分科会セッション

日本臨床環境医学会では現在3つの分科会が活動しています。それぞれの分科会の活動状況を報告していただきました。環境アレルギー分科会からは、今年の5月に「住まいのアレルギー対策—室内環境からのアプローチ—」(技報堂出版)の書籍が出版されたとの報告がありました。会場の受付にも販促用のチラシと書籍が展示されました。

- ・環境アレルギー分科会活動報告 (平 久美子)
- ・環境過敏症分科会活動報告 (北條祥子、水越厚史、黒岩義之)
- ・病院・高齢者施設環境分科会活動報告 (柳 宇)

一般研究発表を対象に、会長賞1件と奨励賞2件の選考を行い、学術集会の閉会式の際に以下の方々に賞状を授与させていただきました。台湾の若手研究者からも素晴らしい発表があり、奨励賞を授与させていただきました。

【会長賞】

加藤 明 (東海大学医学部) : 「動揺病を引き起こす前庭—視覚環境変化とその予防へのアプローチ」

【奨励賞】

胡 怡賢 (横浜国立大学) : 「ワンルーム型の保育施設を対象とした保育者の歌唱時におけるCOVID-19の感染確率と換気量の関係」

Yuan-Ting Hsu (National Health Research Institutes) : 「Multi-disciplinary investigation of the indoor environment/air quality and its mitigation in the residences of subjects with refractory allergic diseases」

本学術集会は、一般社団法人室内環境学会にご後援をいただき、近畿大学東大阪キャンパスの11月ホールで開催いたしました。本学術集会実行委員長の水越厚史先生をはじめとする実行委員の先生方と、当日会場での業務に携わっていただいた近畿大学の6名の学生さんにはご尽力いただき、たいへん感謝しております。また、学術集会開催にあたっては、11月ホールのご担当者さま、日本

臨床環境医学会事務局の皆さま、ホームページやポスター等の作成にあたっては森本有美様にお力添えをいただきました。ここに記して深謝申し上げます。また最後に、本学術集会にご参加いただき、活発な討論等で盛会にしてくださった、全ての参加者と関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

第31回日本臨床環境医学会学術集会実行委員会

会 長	東 賢一	関西福祉科学大学健康福祉学部 教授
実行委員長	水越 厚史	近畿大学医学部 講師
実 行 委 員	奥野 洋子	近畿大学総合社会学部 准教授
実 行 委 員	小林 徳和	新菱冷熱工業株式会社経営統括本部イノベーションハブ
実 行 委 員	徳村 雅弘	静岡県立大学食品栄養科学部 助教
実 行 委 員	萬羽 郁子	東京学芸大学教育学部 准教授